

第2章

高齢者等の現状と将来推計



第1節 高齢者等の現状と将来推計

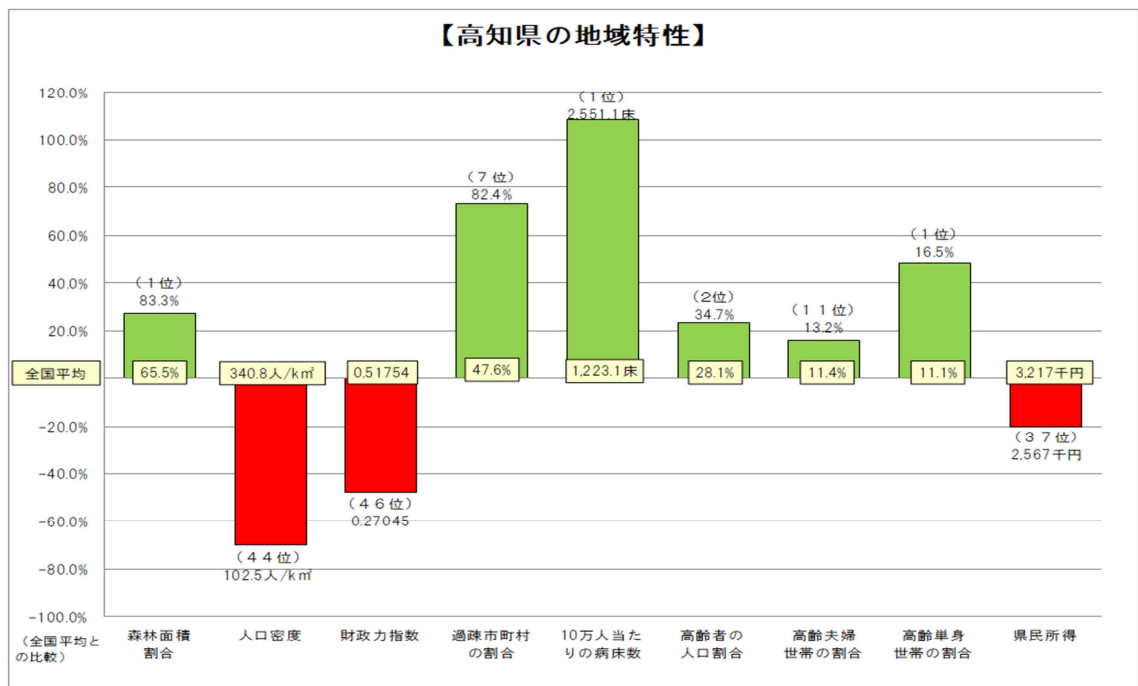
1 高知県の地域特性

県土の83.3パーセントを森林が占め、人口密度は全国平均と比べると約3分の1となっており、過疎市町村の割合は約1.7倍になっています。

高齢者の人口割合は全国第2位であり、高齢単身世帯の割合は全国第1位、高齢夫婦世帯の割合は全国で第11位となっています。

本県の人口当たりの病床数は全国第1位で、全国平均の約2倍となっています。

また、県民所得は全国平均の79.8パーセントと低く、全国第37位となっています。



※グラフの値は、全国平均値を0とした場合の高知県の値を百分率で示したもの。

資料：過疎市町村の割合…平成30年度版「過疎対策の現況」（総務省地域力創造グループ過疎対策室）

高齢夫婦世帯、高齢単身世帯の割合…平成27年国勢調査結果（総務省統計局）

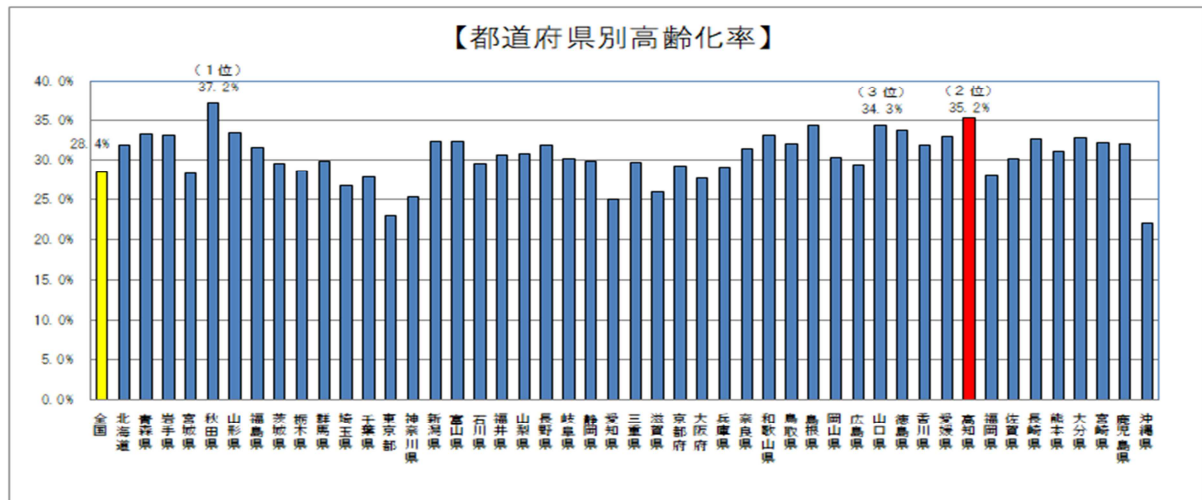
その他…令和元年度版「県勢の主要指標」（高知県統計分析課）

2 人口構造

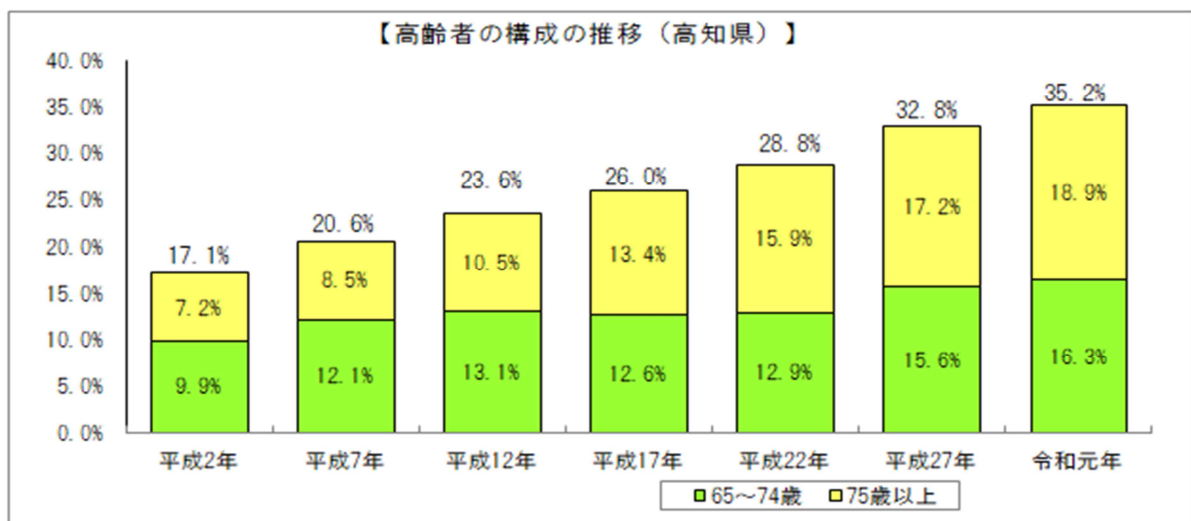
本県の総人口は、昭和35年（1960年）以降、減少傾向にありますが、高齢者は年々増加しています。

総務省統計局の人口推計（令和元年10月1日現在）によると、本県の高齢化率は、全国の28.4パーセントを大幅に上回る35.2パーセントで、秋田県に次いで全国第2位となっており、平成2年と比べると18.1ポイントの伸びとなっています。

年齢階層別の男女別人口構成比を比較すると、55歳以上ではすべての階層で全国の構成比を上回っている一方で、54歳以下の人口構成比は、すべての階層で全国を下回っています。



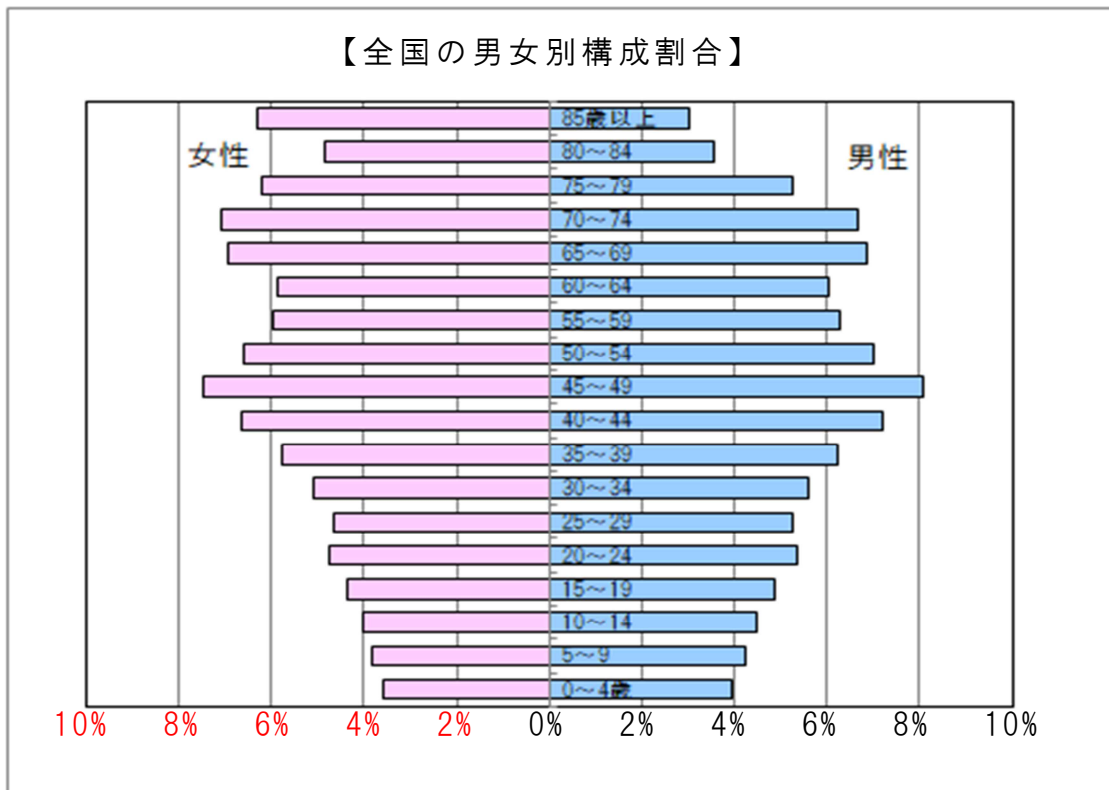
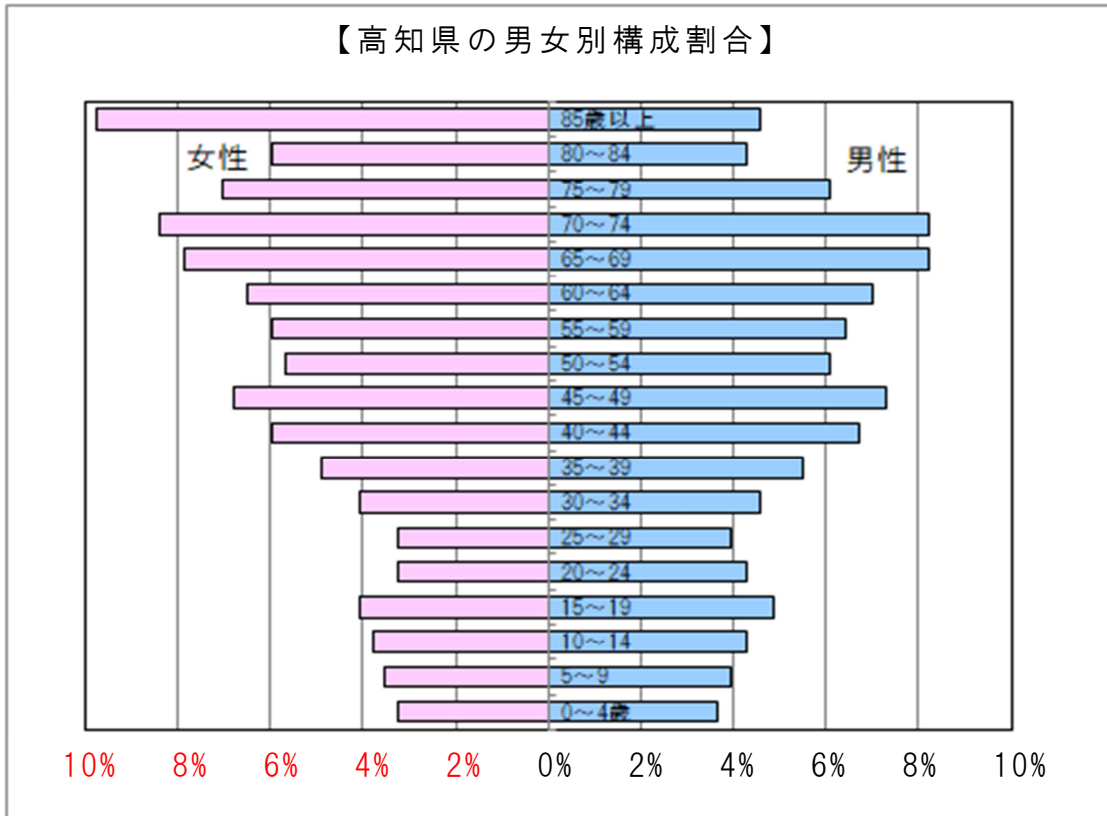
資料：人口推計（令和元年10月1日現在）（総務省統計局）



（注）総人口に占める65歳以上の割合を示したもの。

資料：国勢調査結果（総務省統計局）、

人口推計（令和元年10月1日現在）（総務省統計局）



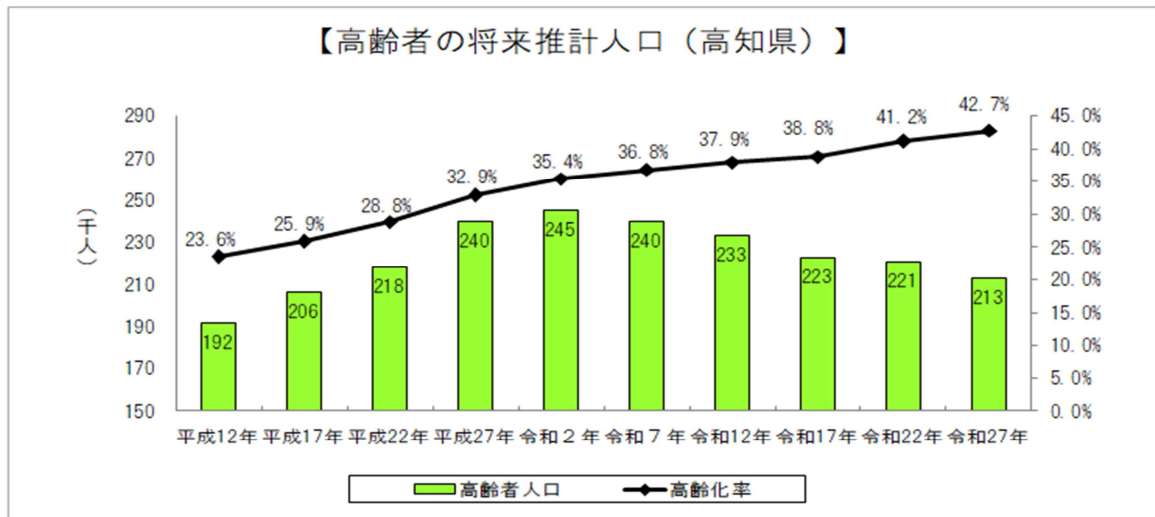
資料：人口推計（令和元年10月1日現在）（総務省統計局）

3 高齢者人口と高齢化率の将来推計

3-1 長期推計（令和3年～令和27年）

高齢者人口は、令和2年（2020年）にピークを迎え、その後は減少に転じると見込まれています。

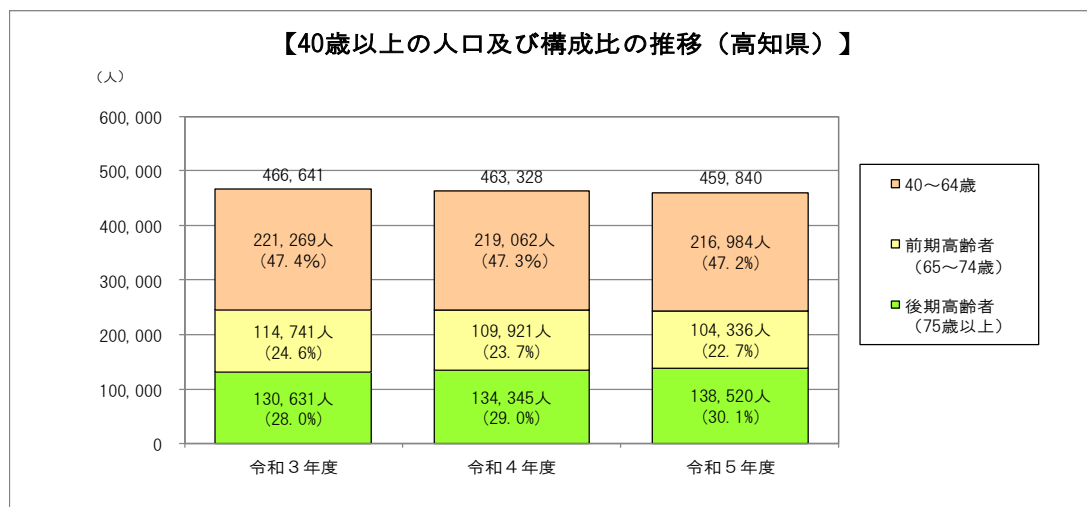
しかしながら、高齢化率は、総人口が減少することから、令和2年以降も上昇する見込みです。



資料：平成27年以前は国勢調査結果（総務省統計局）、令和2年以降は都道府県の将来推計人口（平成30年3月 国立社会保障・人口問題研究所）

3-2 計画期間（令和3年度～令和5年度）

計画期間における各年度の高齢者人口は、後期高齢者が前期高齢者を上回る状態が続く見込みです。

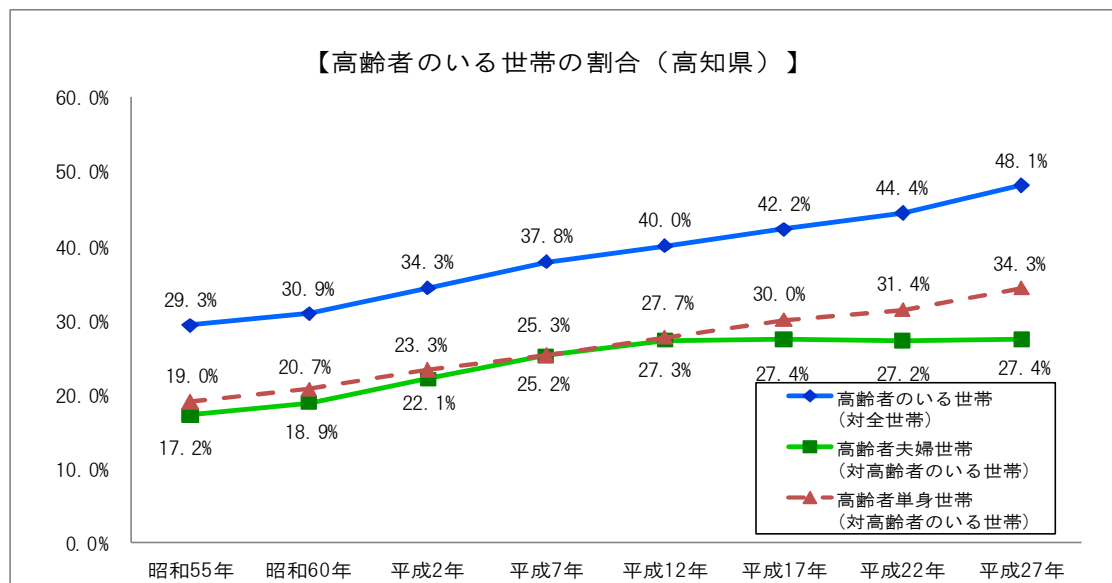
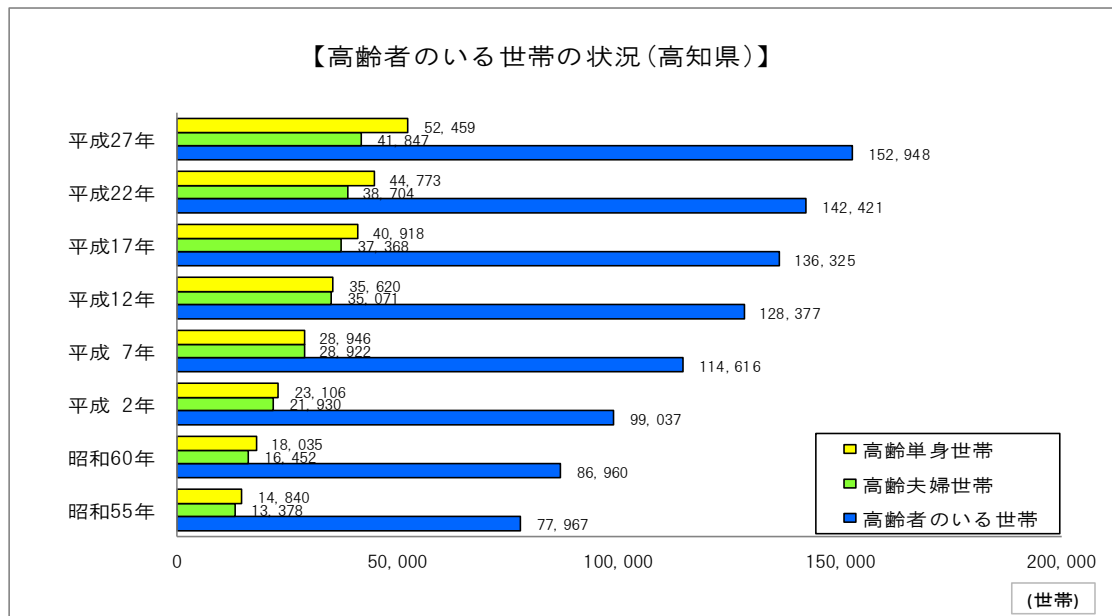


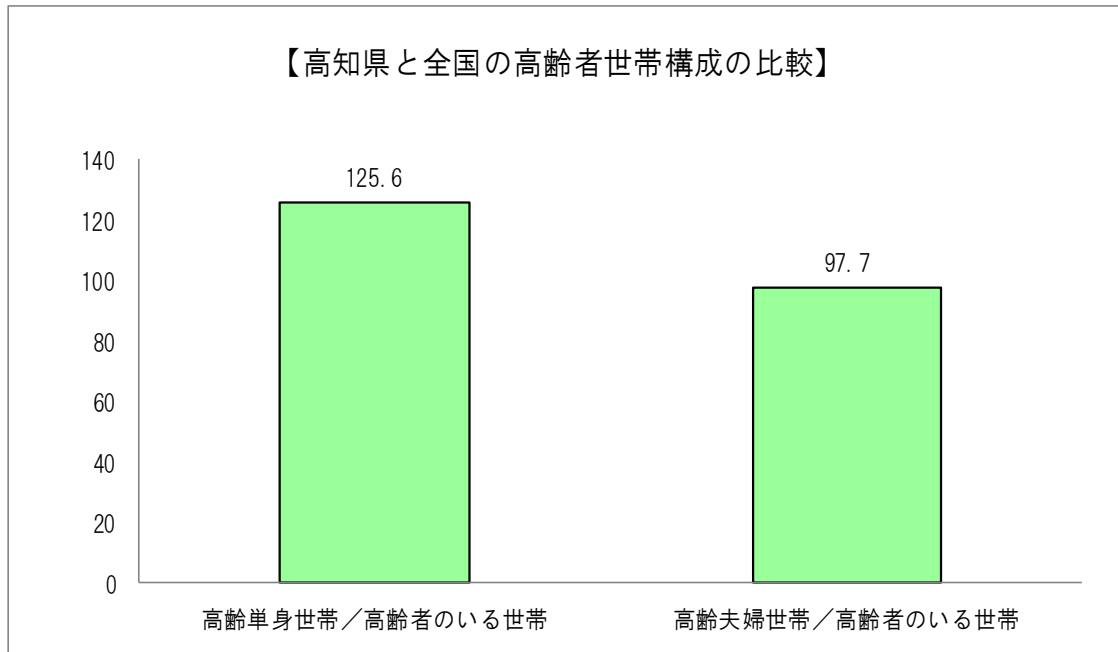
資料：市町村推計の集計結果

4 高齢者のいる世帯の状況

平成27年国勢調査によると、県内の一般世帯318,086世帯のうち152,948世帯が高齢者のいる世帯となっており、48.1パーセントを占めています。このうち、高齢者のみの独居（単身）世帯と高齢夫婦のみの世帯を合わせた割合は61.7パーセントを占め、年々増加するものと見込まれます。

特に、高齢者のみの独居（単身）世帯は年々増加しており、高齢者のいる世帯の34.3パーセントを占めています。また、一般世帯に占める割合は16.5パーセントとなっており、全国一多い状況となっています。



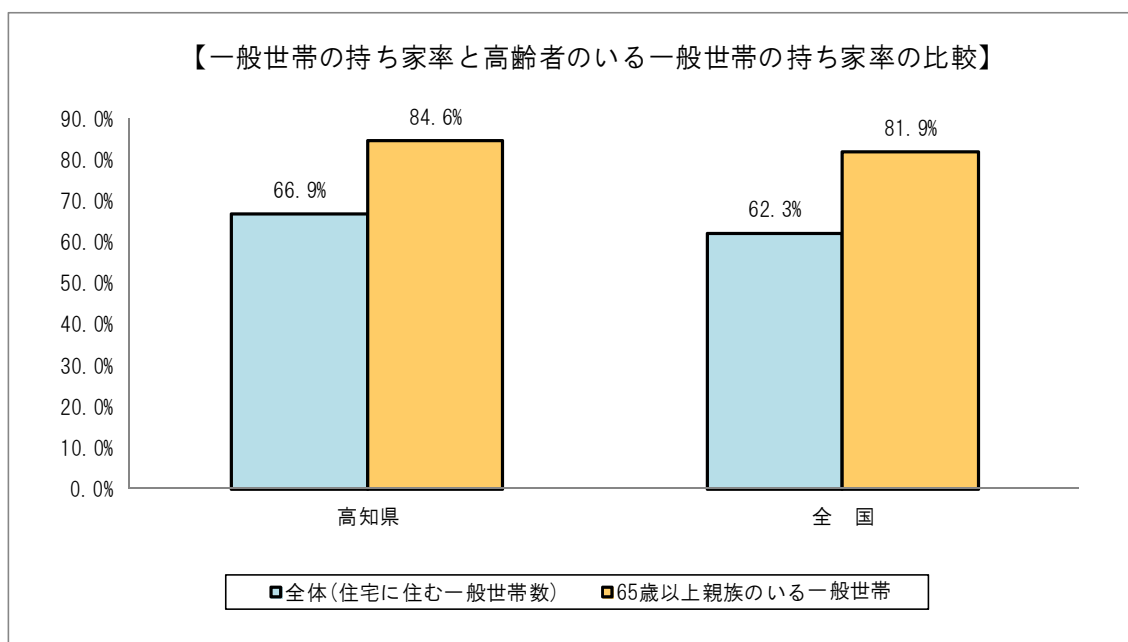


(注) 全国の高齢者世帯構成比を 100 として高知県の高齢者世帯構成を示したもの

資料：平成 27 年国勢調査結果（総務省統計局）

5 高齢者のいる世帯の住居の状況

高齢者のいる世帯の持ち家比率は、全国と比べて高い状況にあります。



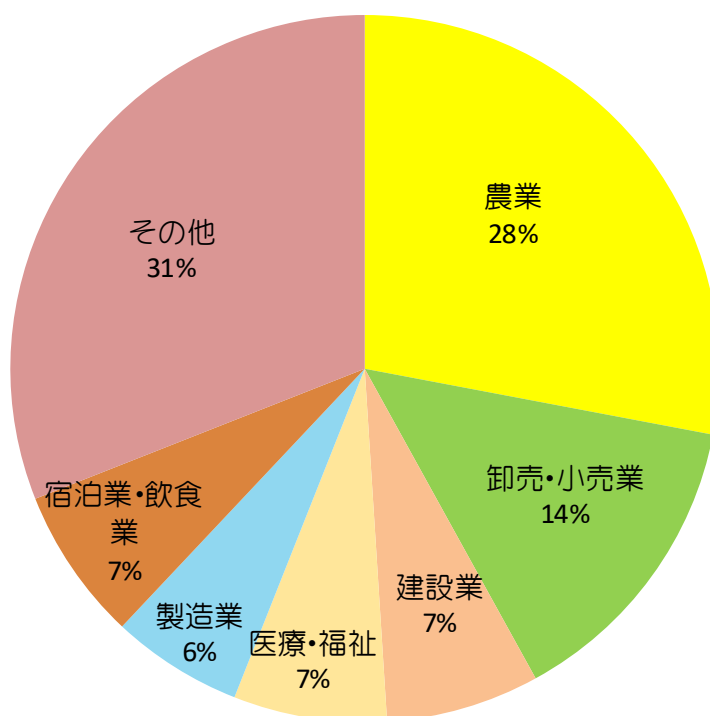
資料：平成 27 年国勢調査結果（総務省統計局）

6 高齢者の就業状況

高齢者の就業状況は、平成27年には65歳以上の高齢者237,012人のうち、54,586人（23パーセント）が就業しています。

業種別では、「農業」が圧倒的に多く、次に「卸売・小売業」となっています。

【高齢者の就業状況（高知県）】



平成27年就業高齢者数
総数 54,586人

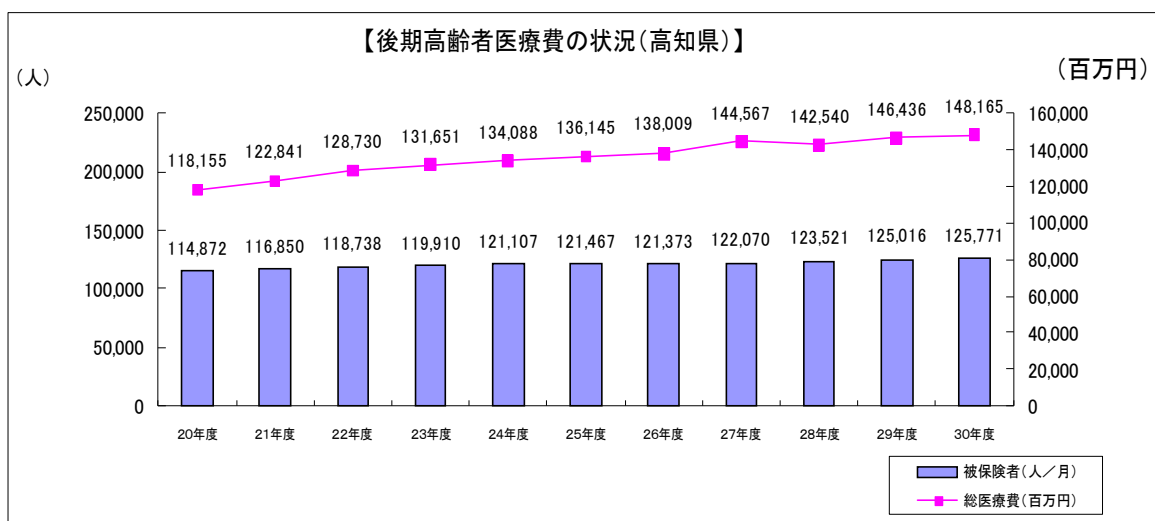
資料：平成27年国勢調査結果（総務省統計局）

7 後期高齢者医療費の状況

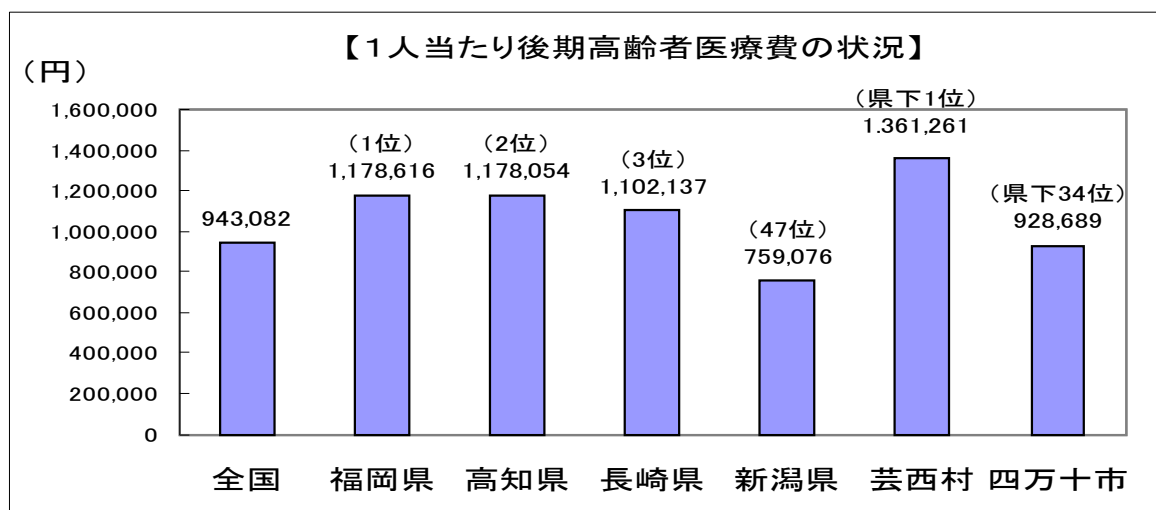
平成20年4月に「老人保健法」が「高齢者の医療の確保に関する法律」に改正となり、75歳以上の方を対象とする「後期高齢者医療制度」が創設されました。平成26年度以降、本県の後期高齢者医療の被保険者は増加しています。

また、本県の平成30年度の1人当たり後期高齢者医療費は、117万8,054円で、平成22年度以降は全国第2位となっています。

後期高齢者数及び1人当たり医療費の増加により、今後も総医療費は増加することが見込まれます。



資料：平成30年度後期高齢者医療事業年報（厚生労働省保険局）



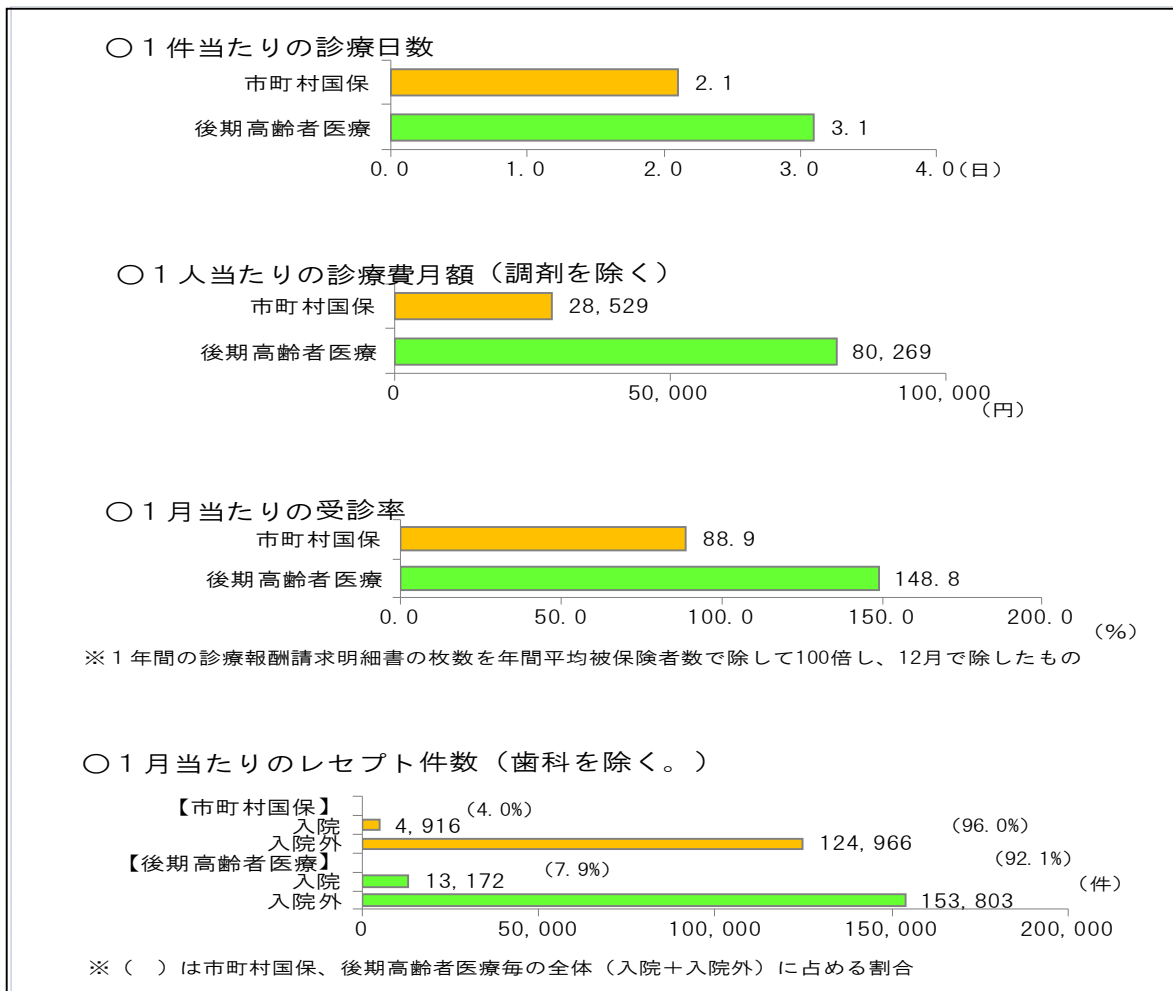
資料：平成30年度後期高齢者医療事業年報（厚生労働省保険局）

8 高齢者等の受診状況、疾病構造等

平成30年度の市町村国保被保険者（75歳未満）と後期高齢者医療被保険者との受診状況を比較した場合、「1件当たりの診療日数」、「1人当たりの診療費月額」及び「1月当たりの受診率」では、いずれも後期高齢者が大きく上回っています。

また、1月当たりのレセプト件数をみると、国保と後期高齢者医療それぞれのレセプト全体の件数に占める入院の割合は、国保が4.0パーセント、後期高齢者医療が7.9パーセントと、後期高齢者医療の入院の割合が高くなっています。主要疾病構造は、循環器系の疾患である高血圧性疾患の割合が、件数、日数及び費用において上位を占めています。

【受診状況】



資料：平成30年度国民健康保険事業年報（厚生労働省保険局）

平成30年度後期高齢者医療事業年報（厚生労働省保険局）

【主要疾病構造】

○ 疾病分類項目別上位5位

・市町村国保 [令和元年6月審査分]

(件数)

	1位	2位	3位	4位	5位
入院	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害(16.15%)	その他の悪性新生物(腫瘍)(5.21%)	骨折(4.94%)	脳梗塞(3.66%)	その他の消化器系の疾患(3.62%)
入院外	高血圧性疾患(15.34%)	歯肉炎及び歯周疾患(13.82%)	糖尿病(4.83%)	脂質異常症(3.78%)	その他の眼及び付属器の疾患(3.10%)
計	高血圧性疾患(14.89%)	歯肉炎及び歯周疾患(13.39%)	糖尿病(4.74%)	脂質異常症(3.67%)	その他の眼及び付属器の疾患(3.04%)

(日数)

	1位	2位	3位	4位	5位
入院	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害(26.26%)	骨折(4.49%)	脳梗塞(4.05%)	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群(4.02%)	その他の悪性新生物(腫瘍)(3.76%)
入院外	歯肉炎及び歯周疾患(15.50%)	高血圧性疾患(12.69%)	糖尿病(4.14%)	脊椎障害(脊椎症を含む)(3.48%)	関節症(3.12%)
計	歯肉炎及び歯周疾患(11.26%)	高血圧性疾患(9.46%)	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害(8.87%)	糖尿病(3.46%)	脊椎障害(脊椎症を含む)(2.91%)

(費用額)

	1位	2位	3位	4位	5位
入院	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害(12.27%)	その他の悪性新生物(腫瘍)(6.32%)	骨折(5.36%)	脳梗塞(4.83%)	その他の心疾患(4.32%)
入院外	歯肉炎及び歯周疾患(11.13%)	高血圧性疾患(10.99%)	腎不全(8.46%)	糖尿病(5.57%)	その他の悪性新生物(腫瘍)(3.69%)
計	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害(7.82%)	高血圧性疾患(5.23%)	その他の悪性新生物(腫瘍)(5.17%)	歯肉炎及び歯周疾患(4.95%)	腎不全(4.80%)

・後期高齢者医療 [令和元年5月診療分]

(件数)

	1位	2位	3位	4位	5位
入院	骨折(9.34%)	脳梗塞(7.19%)	その他の心疾患(6.00%)	アルツハイマー病(4.75%)	高血圧性疾患(3.66%)
入院外	高血圧性疾患(13.13%)	歯肉炎及び歯周疾患(4.91%)	その他の眼及び付属器の疾患(2.83%)	糖尿病(2.66%)	脊椎障害(脊椎症を含む)(2.49%)
計	高血圧性疾患(12.72%)	歯肉炎及び歯周疾患(4.70%)	その他の眼及び付属器の疾患(2.73%)	糖尿病(2.65%)	脊椎障害(脊椎症を含む)(2.46%)

(日数)

	1位	2位	3位	4位	5位
入院	骨折(9.58%)	脳梗塞(8.15%)	アルツハイマー病(6.59%)	その他の心疾患(5.78%)	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害(4.39%)
入院外	高血圧性疾患(12.42%)	歯肉炎及び歯周疾患(5.26%)	脊椎障害(脊椎症を含む)(4.08%)	関節症(3.26%)	糖尿病(2.53%)
計	高血圧性疾患(9.30%)	脳梗塞(4.28%)	骨折(4.16%)	歯肉炎及び歯周疾患(3.36%)	脊椎障害(脊椎症を含む)(3.28%)

(費用額)

	1位	2位	3位	4位	5位
入院	骨折(10.62%)	脳梗塞(8.49%)	その他の心疾患(6.32%)	アルツハイマー病(3.61%)	その他の呼吸器系の疾患(3.34%)
入院外	高血圧性疾患(9.32%)	腎不全(5.00%)	歯肉炎及び歯周疾患(3.48%)	糖尿病(2.75%)	その他の呼吸器系の疾患(1.95%)
計	骨折(6.41%)	高血圧性疾患(5.68%)	脳梗塞(5.48%)	その他の心疾患(4.27%)	腎不全(3.70%)

(注) 疾病分類項目は社会保険表章用疾病分類表による

資料：2019 高知県国保のすがた（高知県国民健康保険団体連合会）

令和元年度後期高齢者医療事業報告（高知県後期高齢者医療広域連合）

9 健康寿命の状況

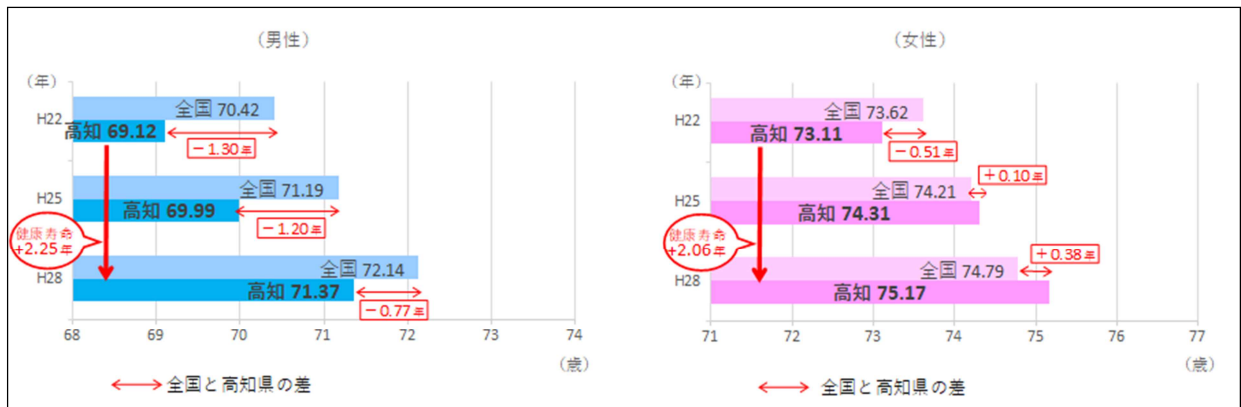
高知県の平成28年の健康寿命は、男性は71.37歳、女性は75.17歳となっており、全国平均より男性は0.77年短く、女性は0.38年長くなっています。平成22年と比べると男性が2.25年、女性は2.06年延びています。

また、健康寿命が最も長い都道府県と高知県の健康格差は、男性で1.84年、女性で1.15年となっており、平成22年と比べると男性は0.78年、女性では1.06年縮小しました。

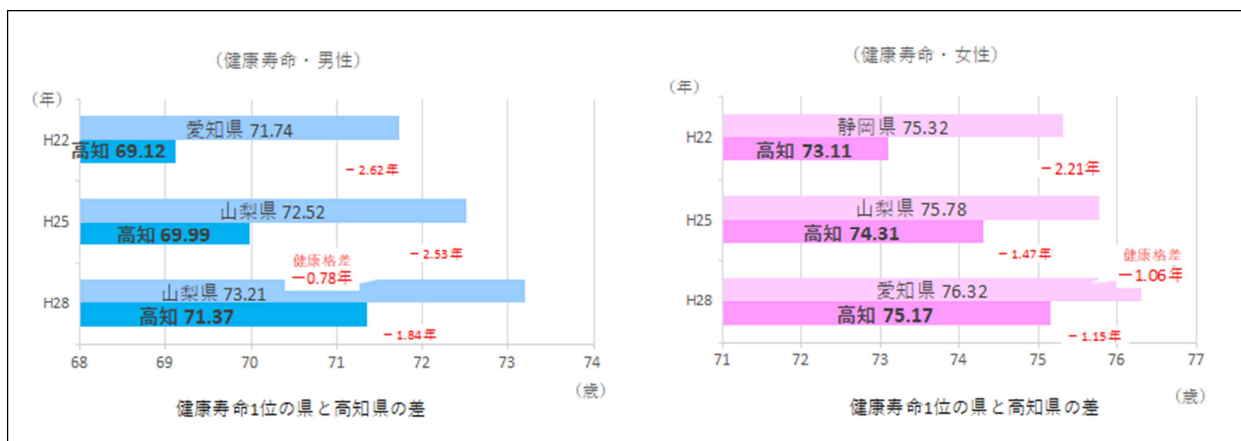
◇ 健康寿命とは

健康寿命は、健康上の問題で日常生活に制限されることなく生活できる期間と定義されています。

【健康寿命】



【健康格差】



資料：厚生労働科学研究費補助金「健康寿命の指標化に関する研究」